

いけ花・お茶・書道・折り紙の美しさに驚き

世界20カ国の外国人家族延べ86名が観賞

国9 - 国竹内 義治 福10 - 芳賀 順子

神戸国際会議場で3月27, 28, 30日の3日間、第19回国際海藻シンポジウムが開かれました。神戸国際観光コンベンション協会からの要請で、グループわの文化、国際両部会の皆さんが、この会議に同伴された家族の人たちに日本の伝統文化を披露して、おもてなしをしました。昨年末に開かれた国際会議で、いけ花などを体験して頂いたところ好評をいただいたので再度、グループわに依頼があったものです。

1日目の27日は、いけ花でアメリカ、メキシコ、イスラエルからのご婦人が参加しました。ビデオでいけ花の伝統をPRしたあと、用意したサクラ、ヤナギ、切花などを選んで思い思いに花を活けました。作品は会議場に展示され注目を集めていました。

2日目の28日は茶道で、にわか造りの立礼式の平点前で茶をたてました。この日も多くの外国人家族がつめかけ、入場制限するほど。3日目の30日は折り紙と書道で、会場は予想外の参加者で賑わいました。文化部の先生たちの着物姿は好評で、国際部の通訳の方も先生たちの思いをしっかりと伝えていただき喜んで頂きました。

この3日間に参加された外国人は20カ国、延べ86名に上りました。

いけばなを展示、花添える

国11 - 文 福井 恵子

いけばな紹介も2回目となり、前回の反省も生かすことが出来、準備の段階からお手伝い下さったスタッフも「楽しかったわ」と喜んでいただいております。お引き受けしてよかったと思っています。

インターネットクラブで勉強してきたパワーポイントによる紹介で「百聞は一見にしかず」も実感しました。すべて通訳の方にお世話になったところは、ありがたく厚く感謝申し上げます。皆さんの作品はコンベンション協会の計らいで、会期中はロビーに飾って花を添えることになりました。型にはまったものでなく、無心に花と向き合って、自己表現された素敵ないけばなでした。



さくらの花を活けるインド人の男性

茶碗の持ち方から手解き

福7 - 文 島岡 一

最初に「お茶の歴史と茶道の作法等」について、岸一恵(福7)が説明・解説すると同時に芳賀順子(国10)が流暢な英語通訳を行い、松本美智子(食4)の立礼による平点前を披露しました。皆さん生まれて初めての経験でもあり、茶碗の持ち方・お茶の飲み方を部員が熱心に指導し一服いただいたあと、希望者によるお点前の実技指導を行いました。

参加された方々は楽しかった来日の「よき思い出」ができたと話されていたことが印象的でした。意外であったのは外国の方々、和菓子(餡入り)が苦手なようでほとんど食べ残された。聞いたところチョコレート系ならとのこと、今後の課題でもある。

国際観あふれる書の講座

食8 - 岩根 知子

今回初めて書道が加わり、読摩師範ほか3名が参加した。何度かの打合せで「書」について、どれくらいの理解と興味があるか、どのように説明してどういう字を書いてもらうか戸惑いましたが、国際部会の方々の流暢な通訳で、和気藹々のうちに時間が過ぎ、参加者に満足頂けたようで安堵した。

季節に合わせて桜・春・花の手本を用意して書いてもらったところ、実に上手で、また芸術的で、楽しそうに何枚も書き続けたり、筆順がうまくいかなかったりと、教えるのに大変でした。ボードに作品を貼って満足気に写真を撮ったり、充実した国際観あふれる講座となりました。

見事な折り紙にアゲイン

福1 - 木原 愛子

スパニッシュ、イングリッシュなど色々な言葉と文化を持っておられる

方々とのふれあいとして、日本の伝承文化である折り紙を仲立ちに、僅か2時間でしたが、子どもさんや男子の方も含めて20名の外国人と充実した時を過ごしました。

兜、金魚、お雛様、風車、騙し舟、鶴、風

船と用意したプログラムを完全に折り上げて満足げでした。お土産に渡した折り紙、千代紙を見て「アゲイン」と言われた事が私たちへの最大の労いの言葉と受け取りました。それぞれのお国へ帰られて、何度も折り返し試してくれたら幸いです。一人づつ握手しお別れしました。

来神の外国人に良い印象

福10 - 文 芳賀 順子

3日間の日本伝統文化講座の通訳を務めさせて頂き、昨年にも増して充実した体験であった。印象に残った人は、インド人のDr. Sivakumarさん。華道講座に大変感動されてゴッシュという絹の肩掛けをプレゼントしてくれた。これは特別にお世話になった人、大統領などにお礼として渡す物だという。もう一組フロリダから来たMrs. Leeと息子のSebastian(11才)は、4講座の全てに参加され、存分に日本伝統文化にしたった。「素晴らしい体験でした。親切にして頂き有難う」と帰っていかれました。

そして「このようなプロジェクトをするのはどういう人達ですか」と質問を受けたので、神戸シルバーカレッジのOBで組織したボランティアグループわの仲間であることを述べた。

3日間着物を着て務めさせて頂いたが「一緒に写真を撮らせて下さい」という人がいた。中には着物を着てみたいという人もいて、着物着付け教室か、着物姿で記念写真を撮ってあげても喜ばれることでしょう。

文化、国際両部会が協力をして仕上げたこの様な活動は、神戸に来られた外国の方々に良い印象を持って貰う為にも有意義な事だと思いました。